

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

姥ヶ山		
姥ヶ山1・2丁目		
清五郎		
長潟		
長潟1～3丁目		
弁天橋通1～3丁目		
南長潟		
美の里		

●位置図

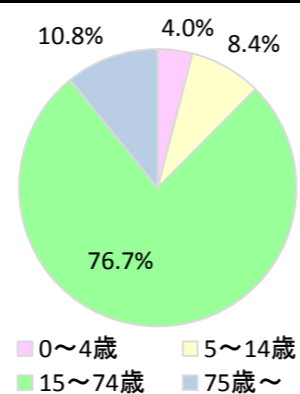


●施設・団体

市役所・区役所等	—
警察・消防	弁天橋交番
消防団	中央方面隊 山潟分団
水防倉庫	—
一時避難場所	新潟スタジアム
広域避難場所	鳥屋野潟公園
主利な用要施設 配慮者	幼稚園・保育園 山潟保育園、湖桜保育園
	高齢者福祉施設 —
	障がい者福祉施設 —

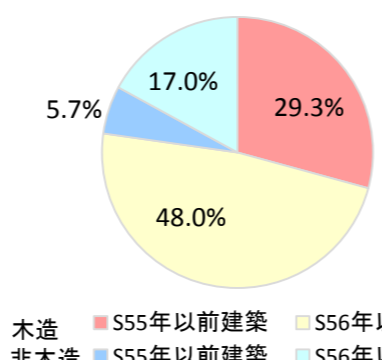
●人口

総人口	7,790人	地区の割合	市の割合
0～4歳	315人	4.0%	4.0%
5～14歳	655人	8.4%	8.5%
15～74歳	5,975人	76.7%	74.6%
75歳～	845人	10.8%	12.9%
65歳以上人口	1,967人	25.3%	26.0%
世帯数	3,325世帯		
一世帯あたり人口	2.3人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	1,934人/km <sup>2</sup>		1,108人/km <sup>2</sup>
昼間人口	8,029人	夜間の103.1%	



●建物関連指標

総棟数	3,195棟	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	935棟	29.3%	44.2%
S56年以降建築	1,533棟	48.0%	46.7%
計	2,468棟	77.2%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	183棟	5.7%	3.4%
S56年以降建築	544棟	17.0%	5.7%
計	727棟	22.8%	9.1%
S56年以降建築物	2,078棟	65.0%	52.4%
S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震 ※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。			



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]山潟小学校	0.0	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]山潟会館	0.5	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]食育・花育センター	-0.5	2	○	—	2階以上	—

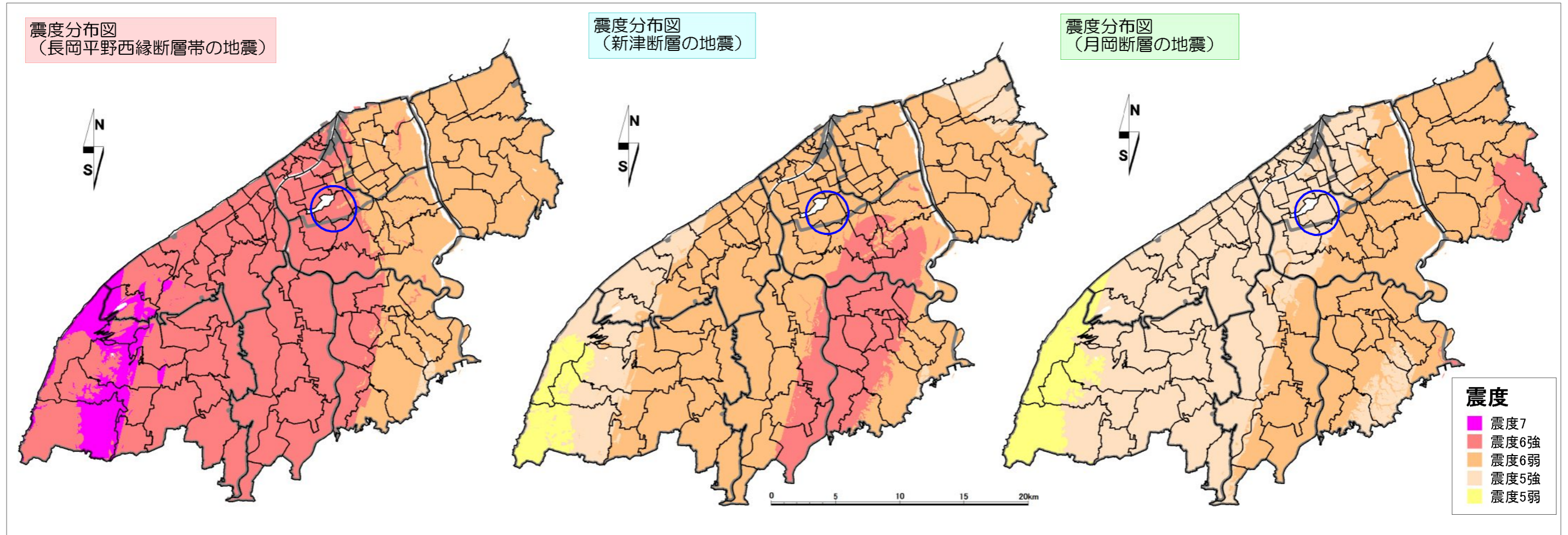
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]女池小学校	0.2	3	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ]新潟江南高等学校	0.7	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]桜が丘小学校	0.4	4	○	—	2階以上	—
[ヒ][ツ]高志中等教育学校	0.8	4	○	3階以上	2階以上	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・避難可能な階数を「—」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液化化の可能性がある。 津波による浸水は、低地の一部地域で想定されている。
洪水・土砂	阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、鳥屋野潟流域の洪水及び小阿賀野川・能代川の洪水によって、浸水が予想される。特に、信濃川下流の洪水では、地区全域の浸水があり、阿賀野川、小阿賀野川・能代川の洪水によっても、広い範囲で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

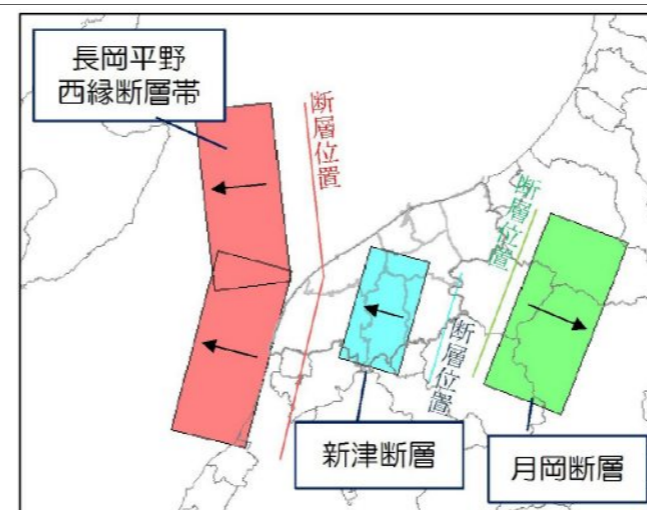
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

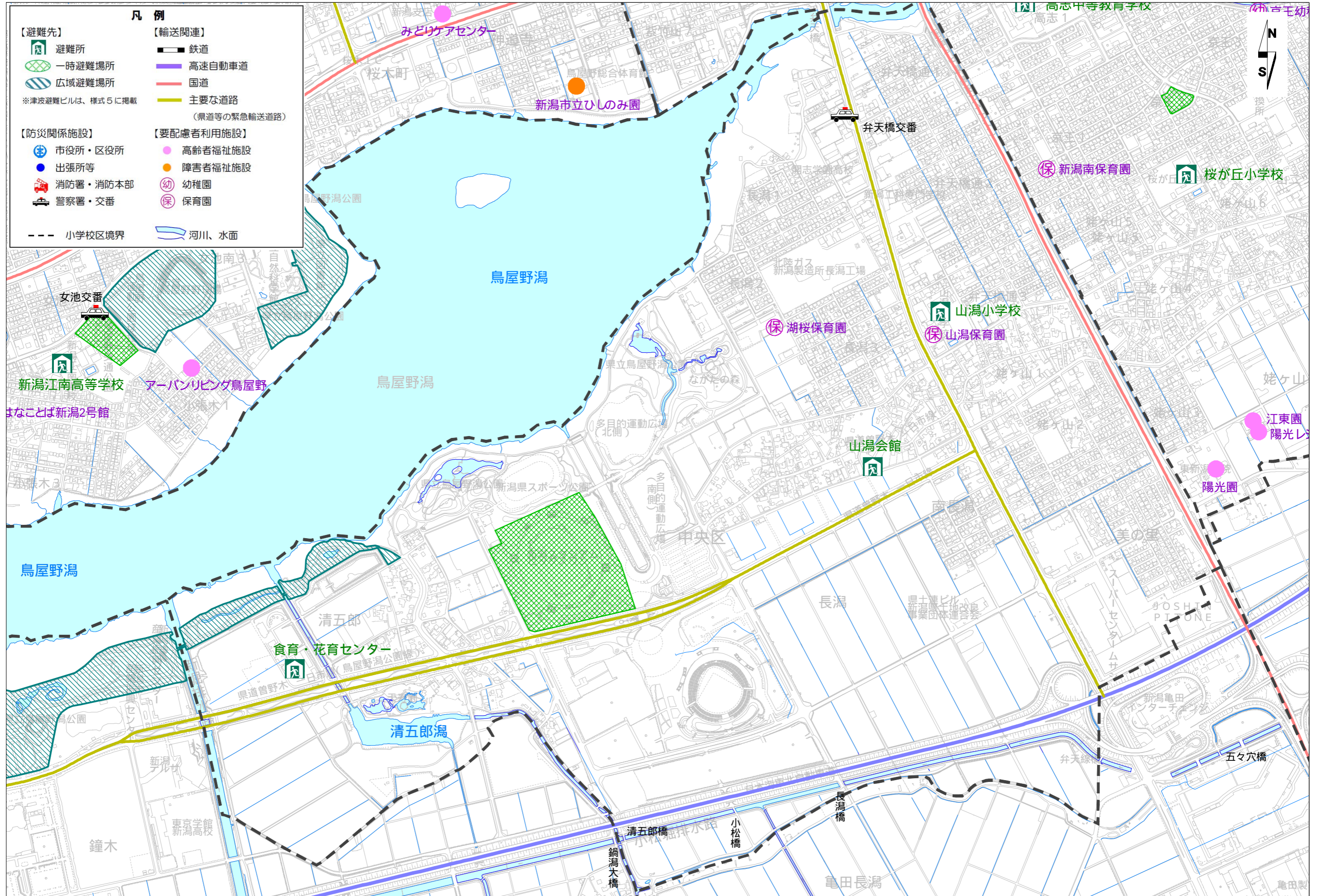
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。

# 様式3 防災地図

# 山潟小学校区



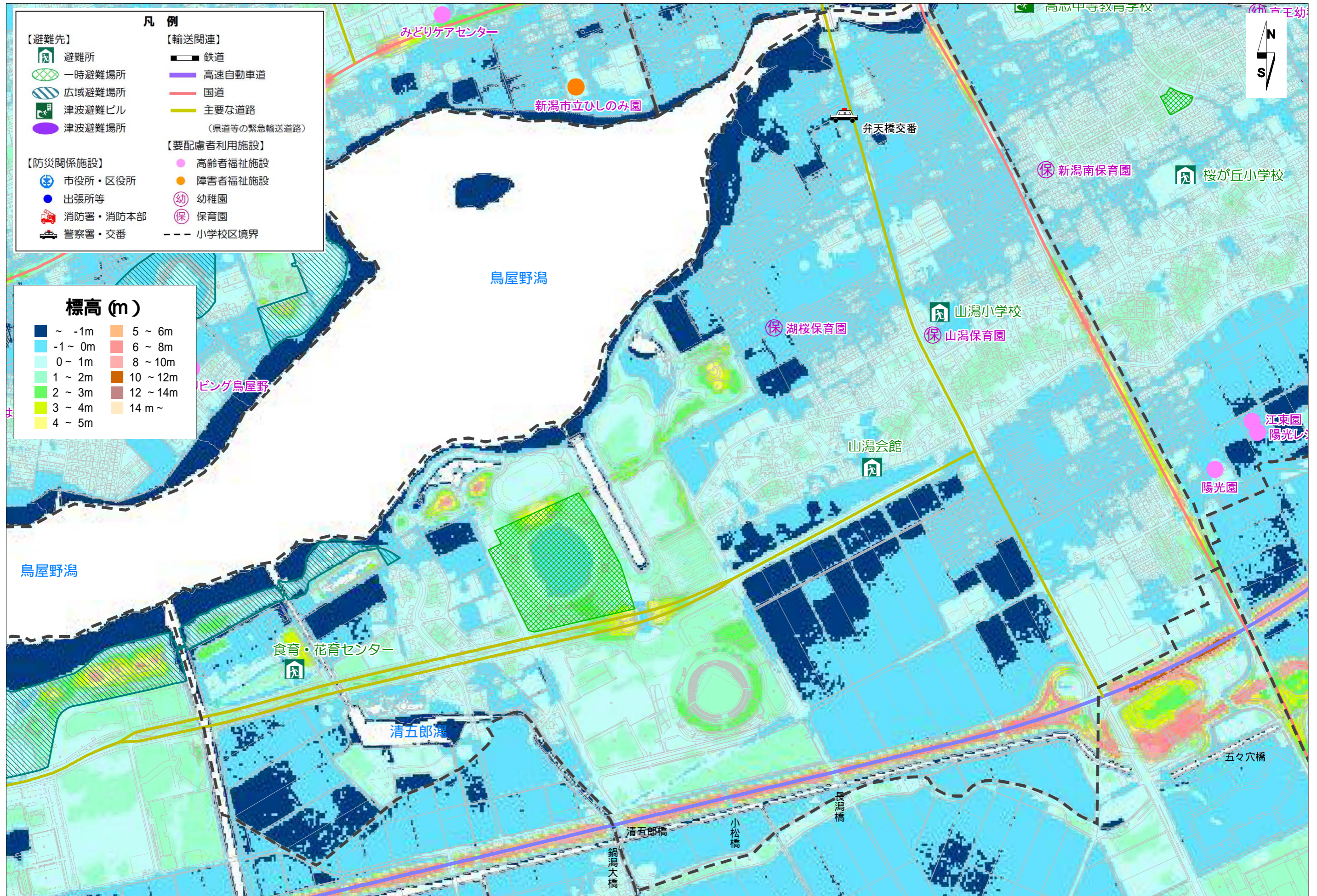
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





様式5 標高分布図

山潟小学校区

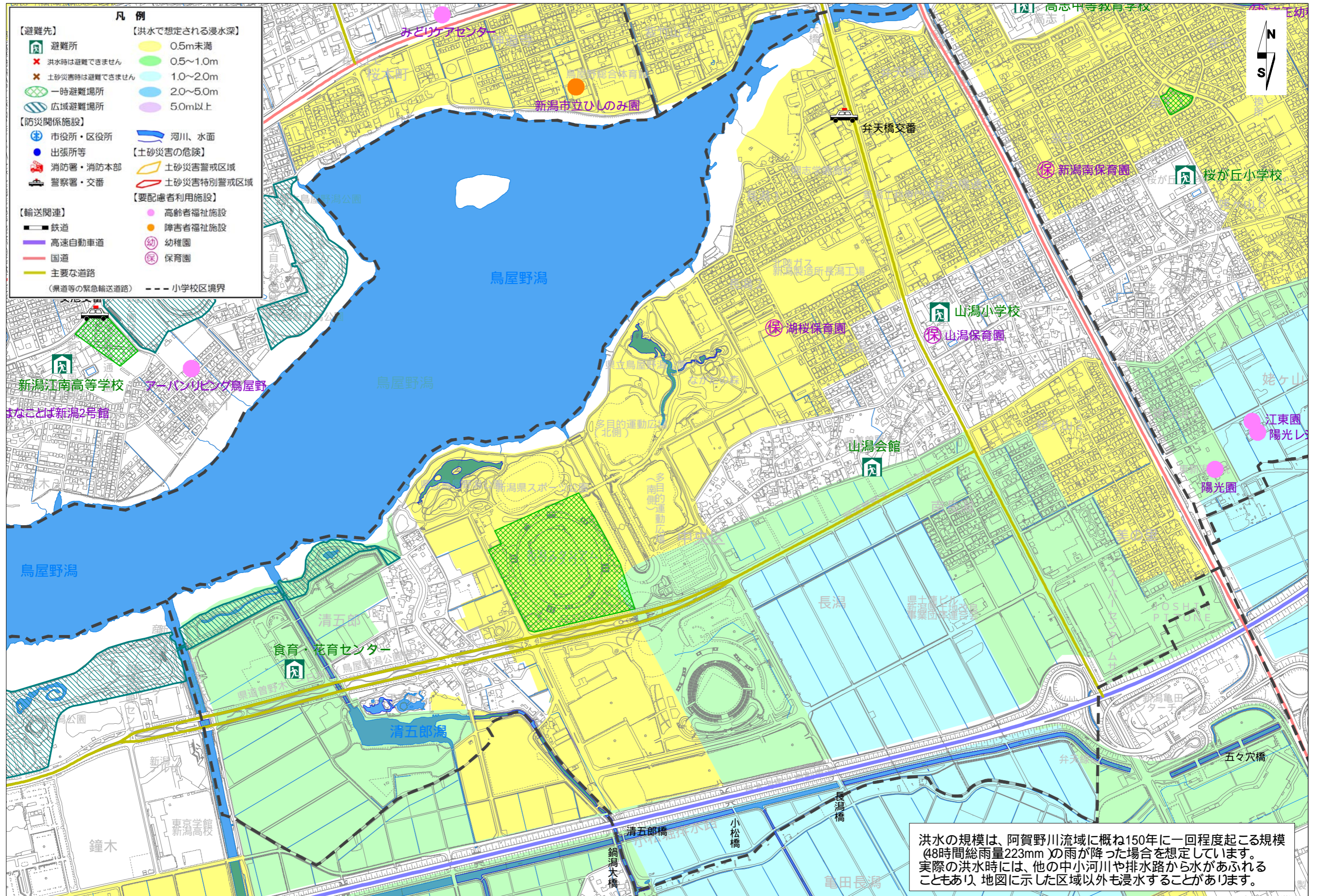


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)  
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（阿賀野川）

山瀧小学校区



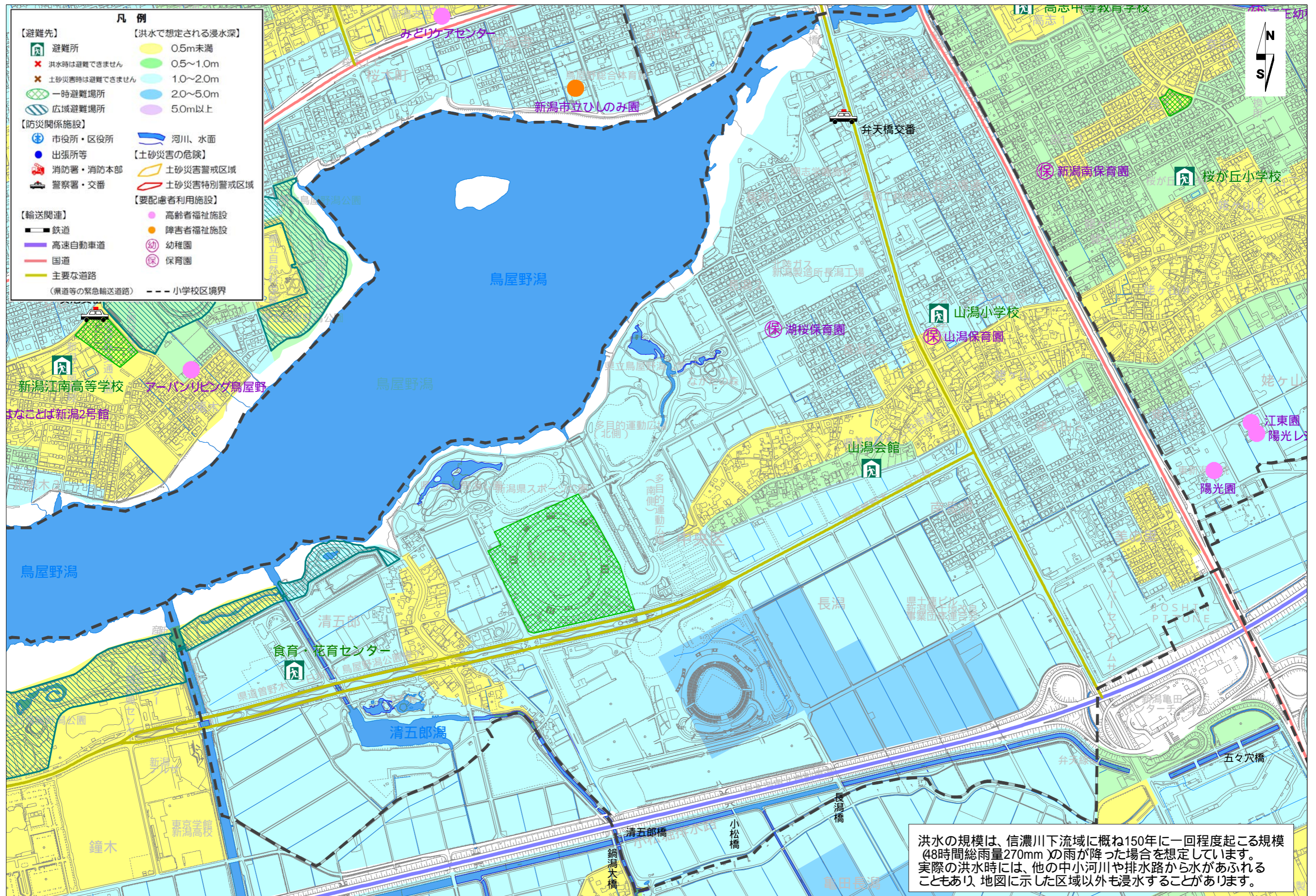
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)



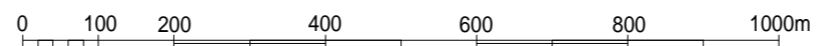
洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量223mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

山瀧小学校区

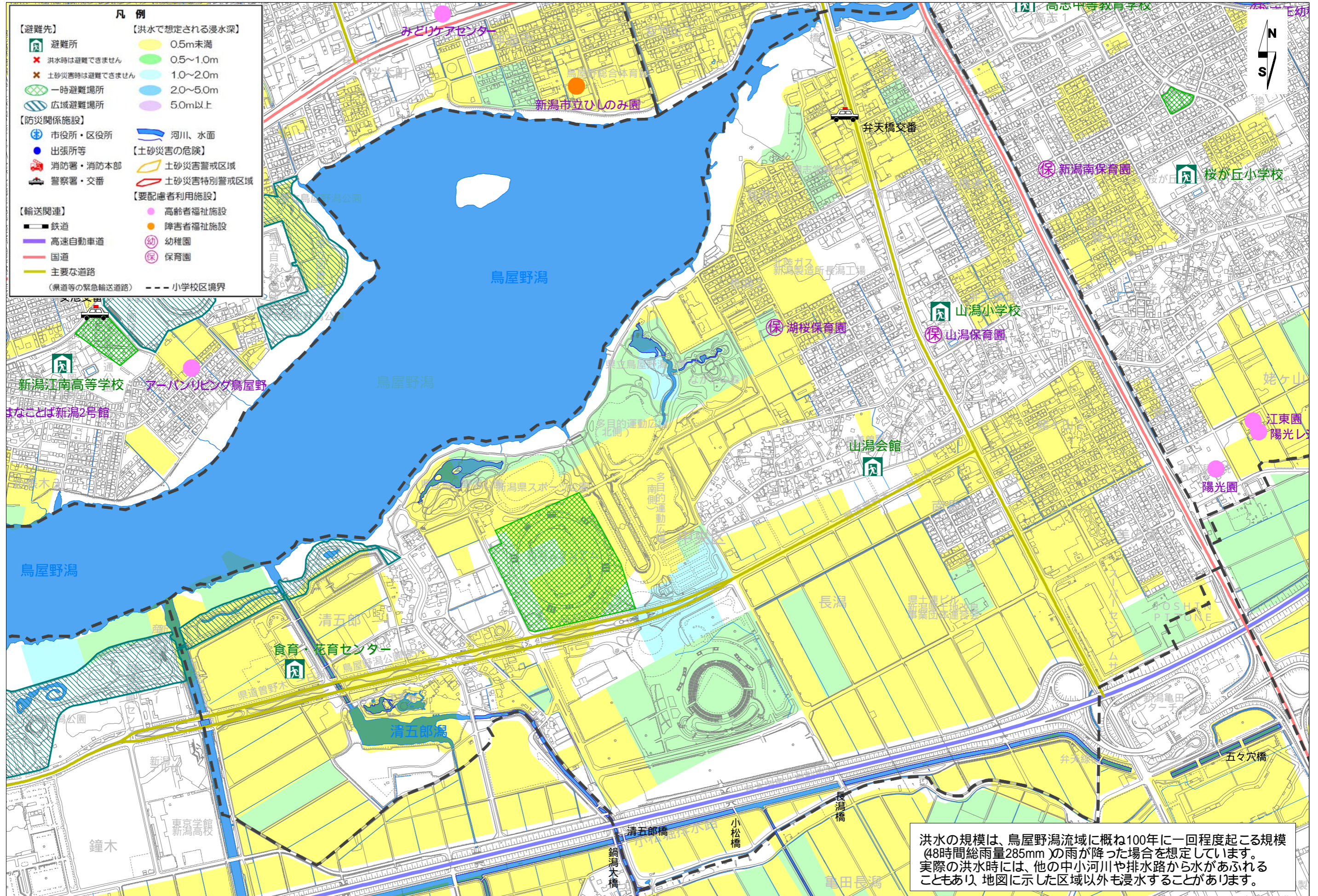


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路）

山潟小学校区



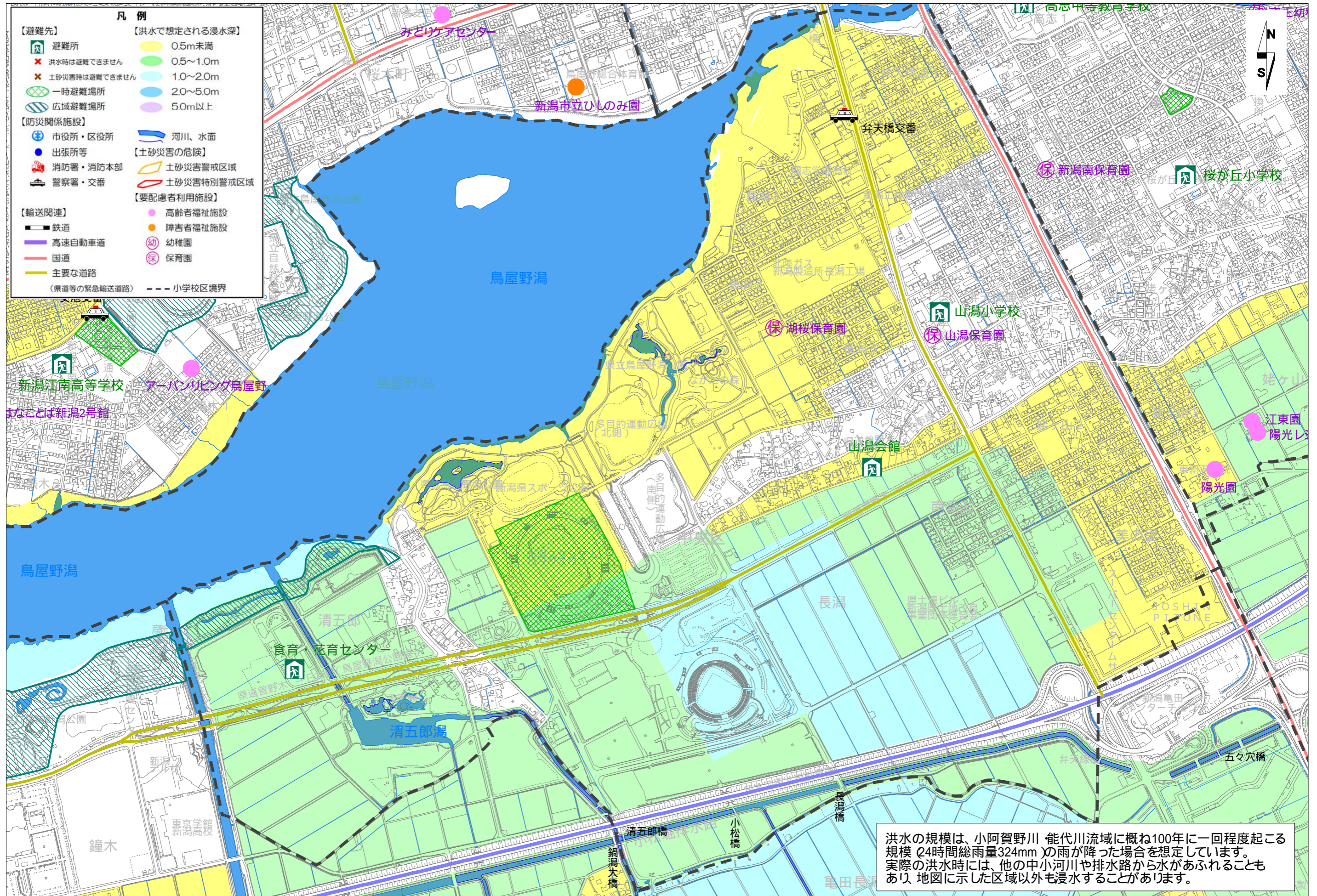
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）  
 栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路浸水想定区（新潟県，平成18年8月25日）



洪水の規模は、鳥屋野潟流域に概ね100年に一回程度起こる規模（48時間総雨量285mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。



様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（小阿賀野川・能代川）



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）  
小阿賀野川・能代川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）

